

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2021年11月15日

【四半期会計期間】 第129期第3四半期(自 2021年7月1日 至 2021年9月30日)

【会社名】 株式会社 白洋舎

【英訳名】 Hakuyosha Company, Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役 社長執行役員 松本 彰

【本店の所在の場所】 東京都大田区下丸子二丁目11番8号

【電話番号】 03(5732)5111(大代表)

【事務連絡者氏名】 経理部長 丹羽 義己

【最寄りの連絡場所】 東京都大田区下丸子二丁目11番8号

【電話番号】 03(5732)5111(大代表)

【事務連絡者氏名】 経理部長 丹羽 義己

【縦覧に供する場所】 株式会社 白洋舎 関西支店  
(大阪府吹田市岸部中二丁目17番1号)

株式会社 白洋舎 名古屋支店  
(名古屋市北区水草町一丁目27番地)

株式会社 白洋舎 神奈川支店  
(神奈川県鎌倉市大船1737番地)

株式会社 白洋舎 京葉支店  
(千葉市美浜区新港221番地9)

株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第128期 第3四半期 連結累計期間	第129期 第3四半期 連結累計期間	第128期
会計期間	自 2020年1月1日 至 2020年9月30日	自 2021年1月1日 至 2021年9月30日	自 2020年1月1日 至 2020年12月31日
売上高 (百万円)	29,036	26,079	39,146
経常損失 ( ) (百万円)	3,639	2,090	4,439
親会社株主に帰属する四半期(当期)純損失 ( ) (百万円)	3,967	761	3,159
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	4,277	777	3,704
純資産額 (百万円)	5,484	5,267	6,057
総資産額 (百万円)	35,318	31,913	34,856
1株当たり四半期(当期)純損失 ( ) (円)	1,046.63	200.57	833.37
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益 (円)			
自己資本比率 (%)	14.5	16.0	16.5

回次	第128期 第3四半期 連結会計期間	第129期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自 2020年7月1日 至 2020年9月30日	自 2021年7月1日 至 2021年9月30日
1株当たり四半期純損失 ( ) (円)	410.89	177.79

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 売上高には、消費税等は含まれておりません。
- 3 「株式給付信託(BBT)」に残存する自社の株式は、1株当たり四半期(当期)純損失の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。
- 4 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### 2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

なお、当第3四半期連結累計期間において、当社は、2021年1月1日を効力発生日として、当社の完全子会社であり連結子会社である信和実業株式会社を吸収合併いたしました。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の異常な変動等又は、前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

(継続企業の前提に関する重要事象等)

当社グループは、新型コロナウイルス感染症が依然として収束しない状況下において、個人向けクリーニング事業における集品の減少や、リネンサプライ事業における得意先ホテルの稼働率の低下等により前連結会計年度から継続して営業損失を計上しております。これらの状況から、当第3四半期連結会計期間末において継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせる状況が存在しておりますが、当社グループはこのような状況を解消すべく、事業拠点の統廃合による工場稼働の効率化によるコスト低減等、当第3四半期連結会計期間末以降の業績回復を展望した構造改革の加速化に取り組んでおります。また、資金面では、当連結会計年度の事業計画等をもとに金融機関に対し説明を行い、必要な資金調達に関しては問題なく実施可能と認識しております。以上から、当該重要事象等を解消、改善するための対応策を講じることにより、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないものと判断しております。

### 2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

財政状態及び経営成績の状況

#### (1) 経営成績の状況

当第3四半期連結累計期間(2021年1月1日～9月30日)におけるわが国経済は、新型コロナウイルスの感染拡大に対する緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の断続的な発出等を背景に、個人の消費行動や社会全体の経済活動が大きく影響を受ける形となりました。9月末の緊急事態宣言解除や、ワクチン接種率の上昇等、収束に向けての進展も見られる一方で、感染再拡大の可能性も懸念される等、先行きは不透明であります。

こうした状況下、当社グループでは、2021年より「Together2023」をテーマとする新たな中期経営計画(3ヵ年)をスタートさせており、コロナ禍において毀損した自己資本を回復し、成長軌道への回帰を果たすべく、不採算店舗閉鎖による固定費の削減や、デジタル化の推進による業務効率の改善、集配やネット宅配といった非接触の営業チャネルへの売上構成比率のシフト等、構造改革の加速化と新たな成長領域の創出に向けた取り組みを行っております。

当社グループの第3四半期連結累計期間の売上高は、外出自粛・在宅勤務等を背景とするクリーニング需要の低迷等による集品の減少や、レンタル事業における法人得意先の稼働減等により、260億7千9百万円(前年同四半期比10.2%減)となりました。営業損失は、人件費等固定費圧縮に努めたものの、24億8千8百万円(前年同四半期は営業損失37億5千万円)、経常損失は20億9千万円(前年同四半期は経常損失36億3千9百万円)となり、親会社株主に帰属する四半期純損失は、第2四半期連結会計期間において固定資産(土地)の売却益を計上したこと等により、7億6千1百万円(前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失39億6千7百万円)となりました。

セグメント別の経営成績は、次のとおりであります。

なお、第1四半期連結累計期間より、「その他」に含めていたクリーンサービス事業のうちハウスクリーニング事業を「クリーニング」に含めて記載しており、変更後の算定方法による前年同四半期の金額と比較しております。

#### <クリーニング>

個人向けのクリーニング事業は、服装のカジュアル化等を背景に、中長期的に需要が低下する傾向にありましたが、新型コロナウイルスの感染拡大以降は、外出の自粛や、在宅勤務の普及等の影響により、ビジネスウェアやおしゃれ着のクリーニング需要の減少に一層拍車が掛かっております。

需要の低下に伴ってワイシャツや背広等のクリーニング売上が低調に推移したことから、クリーニング事業の売上高は130億7百万円(前年同四半期比7.7%減)となりました。不採算店舗の閉鎖等により人件費を中心とした経費削減を図りましたが、セグメント損失(営業損失)は3億4千1百万円(前年同四半期はセグメント損失(営業損失)10億6千万円)となりました。

#### <レンタル>

レンタル事業は、主にホテル・レストラン等のリネン品を取り扱うリネンサプライ部門と、コンビニエンスストアや外食産業、食品工場等のユニフォームを取り扱うユニフォームレンタル部門との、2つの部門からなる法人向け事業です。

当事業は、政府の観光立国化政策やHACCP（食品衛生管理の世界標準）の義務化等を背景に、需要の拡大が見込まれておりましたが、新型コロナウイルス感染拡大以降、入国制限に伴うインバウンド需要の消滅や、得意先ホテルの稼働率低下等を要因として、事業環境は低調であります。

リネンサプライ部門においては、東京オリンピック・パラリンピックの開催に伴い、得意先ホテルの稼働率に回復の動きも見られましたが、感染拡大の影響もあり、コロナ禍以前に比して依然低調に推移いたしました。また、ユニフォームレンタル部門においては、得意先ナショナルチェーンや外食店舗等の稼働減に伴い、レンタルユニフォームの取扱い点数が減少いたしました。

これらの結果、レンタル事業の売上高は114億6千2百万円(前年同四半期比10.7%減)となりました。取引量の減少に対応し、工場の生産調整等により経費の削減を図りましたが、売上高の減少幅が大きく、セグメント損失(営業損失)は10億9百万円(前年同四半期はセグメント損失(営業損失) 15億6千7百万円)となりました。

#### <不動産>

不動産事業では、不動産の賃貸および管理を行っております。

不動産事業の売上高は4億8千4百万円(前年同四半期比14.1%減)、セグメント利益(営業利益)は2億6千8百万円(前年同四半期比2.0%増)となりました。

#### <物品販売>

物品販売事業では、クリーニング業務用の機械・資材や、ユニフォーム等の販売を行っております。

連結子会社において、クリーニング資材やユニフォーム等の売上が減少したことから、物品販売事業の売上高は14億4千5百万円(前年比17.4%減)、セグメント利益(営業利益)は7千9百万円(前年比22.5%減)となりました。

#### <その他>

その他の事業として、モップ・マットのレンタル等を手がけるダストコントロール事業を行っております。その他事業の売上高は12億4千8百万円(前年同四半期比11.3%減)、セグメント損失(営業損失)は、2千1百万円(前年同四半期はセグメント損失(営業損失) 3千2百万円)となりました。

### (2) 財政状態の分析

#### 資産、負債及び純資産の状況

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ29億4千2百万円減少し、319億1千3百万円となりました。

流動資産は、受取手形及び売掛金の減少4億4千5百万円、たな卸資産の減少10億円等により18億5百万円減少し、93億5千万円となりました。

固定資産は、建物及び構築物（純額）の減少3億7百万円、機械装置及び運搬具（純額）の減少3億3千8百万円等により9億4千2百万円減少し、155億7千1百万円となりました。

また、流動負債は、短期借入金の減少6億7千万円、1年内返済予定の長期借入金の減少20億2千8百万円等により39億5千9百万円減少し、103億1千2百万円となりました。

固定負債は、長期借入金の増加23億4千2百万円等により18億6百万円増加し、163億3千2百万円となりました。

純資産は、利益剰余金の減少7億6千1百万円等により7億8千9百万円減少し、52億6千7百万円となりました。

自己資本比率は前連結会計年度末の16.5%から16.0%へ減少いたしました。

### (3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当連結会社の事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

### (4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、37百万円であります。

### 3 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	15,000,000
計	15,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (2021年9月30日)	提出日現在発行数(株) (2021年11月15日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	3,900,000	3,900,000	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数 100株
計	3,900,000	3,900,000		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2021年7月1日～ 2021年9月30日		3,900,000		2,410		1,436

##### (5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の議決権の状況については、株主名簿の記載内容が確認できず、記載することができませんので、直前の基準日である2021年6月30日の株主名簿により記載しております。

【発行済株式】

2021年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 3,000		権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
	(相互保有株式) 普通株式 30,000		同上
完全議決権株式(その他)	普通株式 3,847,900	38,479	同上
単元未満株式	普通株式 19,100		同上
発行済株式総数	3,900,000		
総株主の議決権		38,479	

(注) 1 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、株式給付信託(BBT)が保有する当社株式41,000株(議決権の数410個)が含まれております。

2 「単元未満株式」欄には、当社所有の自己株式2株、および株式給付信託(BBT)が保有する当社株式90株が含まれております。

【自己株式等】

2021年6月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株)白洋舎	東京都大田区下丸子 二丁目11番8号	3,000		3,000	0.08
(相互保有株式) 恒隆白洋舎有限公司	4/F, Flat A, Eldex Building, 21 Ma Tau Wei Road, Hong Kong		30,000	30,000	0.77
計		3,000	30,000	33,000	0.85

(注) 1 他人名義で所有している理由等

所有理由	名義人の氏名又は名称	名義人の住所
実質株主が外国法人であるため	ダイワキャピタルマーケットツホンコンリ ミテッドクライアントセーフキーピング アカウント	ATT:SETTLEMENT DEPT LEVEL 26,ONE PACIFIC PLACE 88 QUEENSWAY HONG KONG

2 株式給付信託(BBT)が保有する当社株式は、上記自己保有株式には含まれておりません。

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(2021年7月1日から2021年9月30日まで)及び第3四半期連結累計期間(2021年1月1日から2021年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。



## 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,069	1,005
受取手形及び売掛金	2 3,844	3,399
たな卸資産	5,552	4,552
その他	725	440
貸倒引当金	34	46
流動資産合計	11,156	9,350
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	21,039	20,854
減価償却累計額及び減損損失累計額	14,807	14,930
建物及び構築物（純額）	6,232	5,924
機械装置及び運搬具	10,079	9,992
減価償却累計額及び減損損失累計額	7,612	7,864
機械装置及び運搬具（純額）	2,467	2,128
土地	6,335	6,215
リース資産	3,868	3,884
減価償却累計額及び減損損失累計額	2,539	2,706
リース資産（純額）	1,329	1,178
その他	1,677	1,611
減価償却累計額及び減損損失累計額	1,527	1,487
その他（純額）	150	123
有形固定資産合計	16,513	15,571
無形固定資産		
投資その他の資産	620	589
投資有価証券	2,380	2,515
差入保証金	1,466	1,313
繰延税金資産	1,889	1,746
退職給付に係る資産	778	780
その他	143	192
貸倒引当金	93	144
投資その他の資産合計	6,564	6,402
固定資産合計	23,699	22,562
資産合計	34,856	31,913

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,683	2,029
短期借入金	3,504	2,834
1年内返済予定の長期借入金	<sup>1</sup> 5,002	2,973
1年内償還予定の社債	12	-
未払法人税等	50	237
賞与引当金	171	141
その他の引当金	19	27
その他	2,829	2,070
流動負債合計	14,272	10,312
固定負債		
長期借入金	6,370	<sup>1</sup> 8,713
役員退職慰労引当金	41	34
役員株式給付引当金	126	125
環境対策引当金	61	61
退職給付に係る負債	4,341	4,376
資産除去債務	423	387
その他	3,160	2,633
固定負債合計	14,525	16,332
負債合計	28,798	26,645
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,410	2,410
資本剰余金	1,518	1,538
利益剰余金	1,352	590
自己株式	345	326
株主資本合計	4,934	4,212
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	494	593
為替換算調整勘定	46	51
退職給付に係る調整累計額	362	343
その他の包括利益累計額合計	809	886
非支配株主持分	313	168
純資産合計	6,057	5,267
負債純資産合計	34,856	31,913

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2020年1月1日 至2020年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自2021年1月1日 至2021年9月30日)
売上高	29,036	26,079
売上原価	28,454	24,614
売上総利益	582	1,465
販売費及び一般管理費	4,333	3,953
営業損失( )	3,750	2,488
営業外収益		
受取配当金	34	26
受取補償金	49	41
為替差益	-	33
雇用調整助成金	97	362
その他	142	204
営業外収益合計	324	668
営業外費用		
支払利息	163	161
シンジケートローン手数料	0	25
持分法による投資損失	12	8
為替差損	2	-
リース解約損	17	2
その他	16	73
営業外費用合計	212	271
経常損失( )	3,639	2,090
特別利益		
固定資産売却益	-	1,623
投資有価証券売却益	-	1
事業譲渡益	-	220
特別利益合計	-	1,844
特別損失		
固定資産処分損	20	38
投資有価証券評価損	27	-
減損損失	-	181
特別損失合計	47	220
税金等調整前四半期純損失( )	3,687	466
法人税、住民税及び事業税	151	230
法人税等調整額	284	157
法人税等合計	435	388
四半期純損失( )	4,123	854
非支配株主に帰属する四半期純損失( )	155	93
親会社株主に帰属する四半期純損失( )	3,967	761

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年9月30日)
四半期純損失( )	4,123	854
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	137	102
為替換算調整勘定	2	16
退職給付に係る調整額	17	18
持分法適用会社に対する持分相当額	2	9
その他の包括利益合計	153	76
四半期包括利益	4,277	777
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	4,118	684
非支配株主に係る四半期包括利益	158	92

【注記事項】

(追加情報)

新型コロナウイルス感染症の影響に関する会計上の見積りについて

固定資産の減損判定、繰延税金資産の回収可能性および継続企業の前提に係る資金繰りの検討においては、当第3四半期連結会計期間の末日現在において入手可能な情報に基づき、当社グループの業績は外出自粛・在宅勤務の普及等を背景とするクリーニング需要の低下等による集品の減少や、リネンサプライ部門における得意先ホテルの稼働率の低下等の影響による業績の下押しが、2022年3月頃まで継続するものと仮定のうえ、会計上の見積りを行っております。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症による影響は不確定要素が多く、当社グループの財政状態及び経営成績の状況に重要な影響を及ぼす可能性があります。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 財務制限条項

前連結会計年度(2020年12月31日現在)

借入金のうち、2,000百万円には、純資産の部及び経常損益に係る財務制限条項が付されております。

当第3四半期連結会計期間(2021年9月30日現在)

借入金のうち、4,000百万円には、純資産の部及び経常損益に係る財務制限条項が付されております。

2 四半期連結会計期間末日満期手形の処理

四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。なお、前連結会計年度末日が金融機関の休日であったため、次の連結会計年度末日満期手形が連結会計年度末残高に含まれております。

	前連結会計年度 2020年12月31日	当第3四半期連結会計期間 2021年9月30日
受取手形	0百万円	百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 自 2020年1月1日 至 2020年9月30日	当第3四半期連結累計期間 自 2021年1月1日 至 2021年9月30日
減価償却費	1,173百万円	1,101百万円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 2020年1月1日 至 2020年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2020年3月26日 定時株主総会 (注)	普通株式	97	25.00	2019年12月31日	2020年3月27日	利益剰余金

(注) 「配当金の総額」には、株式給付信託(BBT)が保有する当社株式(2019年12月31日基準日:48,170株)に対する配当金1,204千円が含まれております。

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日  
後となるもの

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 2021年1月1日 至 2021年9月30日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が前第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が前第3四半期連結会計期間の末日  
後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 2020年1月1日 至 2020年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	報告セグメント					その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連 結損益計 算書計上 額(注3)
	クリー ニング (百万円)	レンタ ル (百万円)	不動 産 (百万円)	物品販 売 (百万円)	計 (百万円)				
売上高	14,088	12,829	564	1,750	29,232	1,407	30,640	1,604	29,036
セグメント利益又 はセグメント損失 ( )	1,060	1,567	263	102	2,262	32	2,295	1,455	3,750

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、モップ、マット等のレンタルを行うダストコントロール事業を含んでおります。

2 セグメント利益又はセグメント損失の調整額 1,455百万円には、セグメント間消去60百万円、各セグメントに配賦していない全社費用 1,516百万円が含まれております。全社費用は、主にセグメントに帰属しない一般管理費であります。

3 セグメント利益又はセグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

当第3四半期連結累計期間(自 2021年1月1日 至 2021年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	報告セグメント					その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連 結損益計 算書計上 額(注3)
	クリー ニング (百万円)	レンタ ル (百万円)	不動 産 (百万円)	物品販 売 (百万円)	計 (百万円)				
売上高	13,007	11,462	484	1,445	26,400	1,248	27,648	1,569	26,079
セグメント利益又 はセグメント損失 ( )	341	1,009	268	79	1,003	21	1,024	1,463	2,488

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、モップ、マット等のレンタルを行うダストコントロール事業を含んでおります。

2 セグメント利益又はセグメント損失の調整額 1,463百万円には、セグメント間消去46百万円、各セグメントに配賦していない全社費用 1,509百万円が含まれております。全社費用は、主にセグメントに帰属しない一般管理費であります。

3 セグメント利益又はセグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「レンタル」及び「不動産」において、操業を中止している工場の操業再開の見通しが立たないことから、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当第3四半期連結累計期間において減損損失181百万円を特別損失に計上いたしました。「レンタル」において138百万円、「不動産」において43百万円であります。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結累計期間より、事業所の統廃合に伴い、「その他」に含めておりましたクリーンサービス事業のうちハウスクリーニング事業を「クリーニング」に含めて記載しております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の算定方法により作成したものを開示しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年9月30日)
1株当たり四半期純損失( )	1,046円63銭	200円57銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純損失( )(百万円)	3,967	761
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純損失( ) (百万円)	3,967	761
普通株式の期中平均株式数(株)	3,790,941	3,795,870

- (注) 1 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。  
2 株主資本において自己株式として計上されている「株式給付信託(BBT)」に残存する自社の株式は、1株当たり四半期純損失の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。  
1株当たり四半期純損失の算定上、控除した「株式給付信託(BBT)」の期中平均株式数は、前第3四半期連結累計期間においては48,170株、当第3四半期連結累計期間においては42,516株であります。

(重要な後発事象)

連結子会社の株式譲渡について

当社は、連結子会社であり完全子会社である株式会社レンテックスの発行済株式の90%を2021年10月1日に譲渡いたしました。

(1)本件取引の理由

2021年4月28日開催の取締役会において、当社が注力する事業領域や、当該子会社事業の持続的な成長の実現可能性等を総合的に勘案した結果、業務提携関係にあり、ベストオーナーとなり得る株式会社トーカイに対し株式譲渡することが、新型コロナウイルス感染拡大下における公衆衛生の維持向上に寄与し、本件事業の持続的な成長、ひいては従業員利益の確保に資するものと判断し、本件取引を行うことを決定いたしました。

(2)譲渡する相手会社の名称

株式会社トーカイ

(3)譲渡の時期

2021年10月1日

(4)当該子会社の名称、事業内容及び当社との取引内容

名称 株式会社レンテックス  
事業の内容 その他事業に含まれるモップ・マットのレンタル等を手がけるダストコントロール事業  
当社との取引 モップ・マットのレンタル及び不動産の賃借

(5)譲渡する株式の数、譲渡価額、譲渡損益及び譲渡後の持分比率

譲渡する株式の数 54株  
譲渡価額 100百万円  
2021年11月30日までに、最終譲渡価格を算出の上、差額を清算する。  
譲渡損益 算定中  
譲渡後の持株比率 10%

(6)その他

株式会社レンテックスは第4四半期連結会計期間の期首より連結の範囲から除外されます。



## 2 【その他】

第129期(自 2021年1月1日 至 2021年12月31日)中間配当については、2021年7月28日開催の取締役会において、これを行わない旨を決議いたしました。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

2021年11月15日

株式会社 白洋舎  
取締役会 御中

### EY新日本有限責任監査法人

東京事務所  
指定有限責任社員業  
務執行社員 公認会計士 小野木幹久

指定有限責任社員業  
務執行社員 公認会計士 江村羊奈子

#### 監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社白洋舎の2021年1月1日から2021年12月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2021年7月1日から2021年9月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（2021年1月1日から2021年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社白洋舎及び連結子会社の2021年9月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

#### 監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

#### 四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

#### 四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。  
監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。  
監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。  
2 XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。